



文化財

発掘調査現場レポート

中溝遺跡

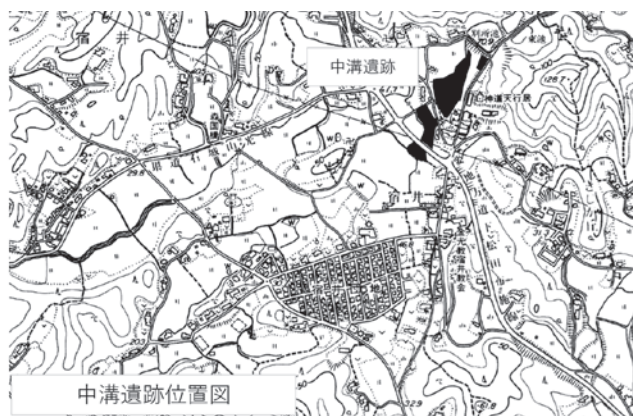
国営緊急農地再編整備事業（圃場整備）に先立ち、平成30年度、宿井地域の別所池の下側（中溝遺跡）で発掘調査を行っています。

発掘調査は平成30年5月上旬から行われ、前半で現在稲作をしていない箇所、後半で稲刈りが終わった後の田んぼの調査を行っています。

います。

中溝遺跡は、弥生時代から中近世の集落遺跡と見られ、遺物の出土量が多く、2月末の段階で出土した遺物が青コンテナ20箱を超えています。現在も引き続き、発掘調査が行われています。

なお、発掘調査を行い、現時点で判明しているものは、弥生時代中期（約2100年前）の住居跡が3棟、貯蔵穴と思われる遺構、用途は不明ですが、土器が廃棄された遺構などで、これ以外にも多くの遺構が見つかっています。



また、この遺跡では、東田布施小学校と田布施西小学校から、児童が体験学習で来跡して遺物を掘り、また発掘調査をしてみたいといった感想が出るなど好評でした。体験学習でも、多くの土器が見つかっています。

※調査成果については、今後、発掘調査遺跡報告会（仮称）を開く予定にしています（日時は未定）。発掘調査は、3月20日まで行う予定です。

